

<無痛分娩の方法と注意点>

硬膜外麻酔による無痛分娩とは:

背中から細いチューブ(カテーテル)を挿入して、そこから局所麻酔薬を少量ずつ投与することにより陣痛を和らげる方法です。

麻酔の効果には、個人差があり、また分娩進行の段階によっても、痛みの程度に変化があります。陣痛の痛みが必ずしも“0”になる方法ではないことは、ご了承ください。

なるべく痛みをコントロール(軽減)できるように対処したいので、効果が不十分と感じる時は、担当のスタッフに相談してください。

<処置の方法>

- ① 血管確保のため点滴を行い、血圧計をつけます。
- ② ベッドに横向き(側臥位)になり、背中を丸くする姿勢になります。
(座って行う場合もあります)
- ③ 背中を消毒して局所麻酔(表面の麻酔)を行い、腰椎の間に細いカテーテルを挿入、固定します。
- ④ 薬剤テストのため、少量の薬剤をカテーテルから注入し、仰向けになります。
- ⑤ テストに異常がなければ、硬膜外麻酔を開始します。
- ⑥ 産婦さんやそれぞれの痛みに合わせて、麻酔薬の量や使用時間を調整します。
- ⑦ 計画分娩や陣痛が微弱の場合には、子宮頸管拡張剤(ラミナリア・ダイラパン)や陣痛促進剤を使用します。(子宮頸管拡張や陣痛促進剤については別紙を参照してください。)

<注意点>

※副作用として

比較的多いものが、発熱・低血圧・尿が出にくい・痒みなどです。

稀なものは、頭痛・硬膜外血腫・神経障害・薬剤中毒などです。

※麻酔開始後、飲食や歩行に制限がある場合があります。

※無痛分娩により吸引分娩の増加(約10%)が報告されています。

※分娩誘発が不成功の場合もあります。

その場合は、その後の方針につき医師と相談になります。

※分娩経過により、帝王切開になることもあります。